

平成28年度第15回小牧市地域協議会市民会議会議録

- 1 開催日時** 平成28年5月10日(火)
午前10時～11時

開催場所 小牧市役所 本庁舎3階 301会議室

2 出席者

- (1) 市民会議委員 18名
(2) 事務局 伊木市長公室長、山本市長公室次長
協働推進課：入江課長、宮下主幹、堀田係長、葛谷
(3) 傍聴者 1名

3 会議資料

会議次第

委員名簿

地域協議会市民会議設置要綱

平成28年度地域協議会市民会議のスケジュール

4 会議内容

- 1 委嘱状の交付
- 2 市長あいさつ
- 3 正副会長の選任
- 4 地域協議会市民会議の役割について
- 5 その他

〔市民憲章唱和の後、市長から委員を代表して小柳委員へ委嘱状を交付〕

【山下市長】

皆さん、おはようございます。

本日は、小牧市地域協議会市民会議ということで、皆様方にはお忙しいところお集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。

この地域協議会市民会議でありますけれども、既に2期4年ということで、これまで進めてきているところでございます。

今回は改選ということで、ただいま委嘱状の交付をさせていただいたところでございますが、様々なお立場で、それぞれ地域で御活躍をいただいている皆様方に委員としてお願いをさせていただいたところでございます。

改めて申し上げるまでもありませんが、地域の支え合い活動、ボランティア活動、こういったものが強く求められる時代になっているところでございます。

市としても、そうした時代背景の中で、一層市民の皆様方のお力もいただきながら一緒になって地域づくりを進めていく、そんな仕組みを強化していきたいと思っているところでございまして、その仕組みの一つが地域協議会と考えているところでございます。

これまでに、陶小学校区で第1号の地域協議会が立ち上がりました。それから、篠岡小学校区で二つ目の地域協議会が立ち上がりました。あと、先月でありますけれども、小牧原小学校区でも地域協議会が発足をしたところでございまして、今、16小学校区の中で3つの地域協議会が立ち上がってきているところでございます。

皆様方に改めて時代背景を説明する必要はないかと思いますが、少しでも改めて認識を共有したいのは、こういった自治あるいは協働ということの仕組みを再強化していくことの必要性というのは、ある程度市民の皆様にもいろいろと説明してきているところであります。こういったことについてさらに進めていくためには、より一層その地域の実情、これからの行く末を市民の皆さんと危機感も含めて共有しながら、進めていくことが、非常に重要だというようなことを専門家の方からもお話をいただいているところでございます。

少しお話をさせていただきますと、日本の人口の推移、推計の資料を見ますと、今から100年ぐらい前は人口4,000万人まで届いていなかった

ぐらいの状況だったわけなんです。それが約100年経ちまして、愛知万博が行われましたのがちょうど10年前でありますけれども、人口約1億2,800万人、そのころに日本の人口がピークであったということであって、もう今は我々が頂点からちょっと下り坂になりかけているところにいるわけでありまして、日本の総人口が既に減ってきているという状況で、この事実を共有していく必要があると考えております。

ちなみに、100年後の推計でありますけれども、およそ100年かけて3倍になった人口が、100年かけてまたもとの4,000万ぐらいまで減っていくというようなことを言われている状況であります。

国の主導で地方創生ということが今言われており、本市でもまち・ひと・しごと創生総合戦略というのを昨年策定いたしました。これは人口減少対策ということを各自治体も取り組みなさいよということで、小牧市も含め約1,700の全ての自治体が策定をしたわけでありまして。

大体2060年ぐらいが、その計画の目標年次になっておるわけですが、日本の総人口でいきますと、9,000万人を下回ってくるのではないかなという状況であります。本市においては、約45年後でありますけれども、今のまま推移いたしますと、10万8,000人ぐらいにまで人口が減っていく、今、約15万3,000人ありますから、約3分の1の人口が減っていくということになります。

今までずっと、人口が増えるのが当たり前で、経済規模が拡大し、そして税収も拡大をしてきたという右肩上がりの成長の時代から一転し、人口が減り、経済規模や税収も減っていく。その一方で、今、社会保障関係費がどんどん増加の一途をたどっております。本市も同様の状況でありまして、近年の状況を見ますと、毎年約1%ずつ小牧市内の高齢化率が上昇している状況でございます。

現在、約22.4%ぐらいなんです。私が就任したころは約18%ぐらいでありまして、本当に毎年1%ずつぐらい上昇しております。

今、2025年問題と言われますが、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になる年、要するに10年後ぐらいが一番厳しいのではないかとと言われております。そのあたりから総人口が減ってきますから、高齢者の数自体は減っていくんですけれども、ただ、生産年齢人口、年少人口も減っていく中で、高齢化率自体は2060年ごろまでピークアウトしないのではないかなというふうに言われている状況でありまして、高齢化率自体は30%を超えて、さら

に伸びていくという状況が予測されています。

そういう状況の中で、財源が一層厳しさを増し、行政ももちろん最大限の努力をしてみますがけれども、行政だけでは地域の安全・安心が保障できないのではないかとということが予測されているところでありまして、介護保険の状況も、国は来年度、制度改正を予定しておりますけれども、要支援1・2の方については施設にはなかなか入れないわけでありまして、国も介護保険の枠を外して、地域で支え合いの取り組みをしてくださいよというようなことを言っているわけです。

小牧はまだ財政状況も悪くないし、高齢化率も全国平均からするとまだまだ若い方なんですけれども、活力のある今のうちから早期に対応していこうということで、私が就任以来、地域協議会の制度や市民提案による行政とタイアップした事業の展開だとか、実はいろんなところで進めてきたわけでありまして。

ただ、小牧はまだ自治会がしっかりしておりまして、129区ある中で自治会加入率も80%台を維持していますので、なかなか危機感が共有できていない状況にありまして、この地域協議会の設立が進んでいかないのかなというようなことについて、私としては強い危機感を持っているところがございます。

そんな中で、新たなメンバーに入っていただき、地域協議会市民会議の三期目がスタートしましたので、もちろん庁内でも議論していますが、私といたしましては、もう少しスピードアップできるような設立の仕方を検討していきたいと強く思っているところがございます。

地域協議会がなかなか進んでいない背景には幾つかの要因があるわけで、担い手の問題もさることながら、まずこれまでの本市の仕組みの中で、小学校区単位でのつながり、活動の場がなかったということがあります。どうしても129の区（自治会）というのを基本とした区単位の活動がメインであるということが一つあります。

もう1つは、小学校区単位とした場合の活動拠点の課題です。活動しようとしても、どこに拠点を置けばいいんだということが一つ大きなネックになっているということがあるんです。

最後は、市内で、区と学区の線引きがずれているところがあるんです。いざ立ち上げようとする、じゃあうちの区はどっちに参加したらいいのかとか、そういったことがブレーキになっているところがあるとい

うことも聞いております。

このあたりにネックがあるんですけども、小学校区単位がおよそこういったことには向いているのではないかということで、過去の市民会議の中で答申をいただいているところでございまして、市としては、小学校区単位での地域協議会の設立へ向け、引き続き、進めていきたいと考えております。

地域協議会は、話し合いの中で、3つぐらいの分野でやっていこうということに進めていかれるケースが多いです。1つには、防災・防犯の分野、1つには子育てとか、子育て支援の分野、最後に、高齢者対策の部分が大きいんですけども、地域福祉の分野。私としては、とにかく今危機感を持っている、特に地域福祉の分野で、ボランティアの皆さん方の御厚意をつなげるような仕組み、できればこの地域協議会で小学校区ごとに活動拠点を設置し、ボランティアセンター的な機能を持ちたいというような思いを強く持っているわけでございしますが、何とかここら辺の仕組みを早期に市内全域で進めていきたいと考えております。

そんな中で、新たな人材発掘のきっかけとして、新たなボランティアポイント制度、あるいは地域活動のポイント制度を検討していきたいと考えております。

今、無償でやっていただいているのはボランティアなんですけれども、実は交通費等の経費もかかるし、手弁当ではちょっとという意見もあるなかで、少しそういった必要経費の実費弁償的な意味合いも含めまして、これは議会からの御提案もあったわけですが、これから制度設計を進めていきたいと思っておりますので、そんなことも、少しこの会議の中でもんでいただけるとありがたいと考えております。

できれば年度内にモデル事業を実施し、来年度ぐらいからは、市内全域でやりたいなというようなことを私としては思っておりますので、ぜひ皆さんの御理解と御協力をいただきたいと思います。

今まで進めてくる中で、いろいろと教訓もございまして、学んだこともございまして。また制度の見直しなんかも必要であれば、そういったことも考えながら、まずはハードルを下げ、少しでも理解が進むように、行政もいろいろと議論をしておりますので、また、皆さん方にも改めて御相談をさせていただければありがたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

少し長くなりましたが、引き続きの方々もお見えでございますけれども、今回新たに御就任いただいた皆さんもお見えでございますので、少し私からお話をさせていただきました。

もう少しだけ補足しますと、区長会の中で毎年研修をやっていただいておりますが、決して区長さんに全てをやらせようということではありません。これは地域の中で、やれる人、やりたい人が集い、単年度ではなくて、継続的に積み上げていける組織をつくっていきたいと思っております。ですから、区で役職がついたから今年度だけは地域協議会に参加するよ、あるいは区長さんだとか、役職がついたから担うということではなくて、少しの時間でもいいから、拠点に行けば誰か人がいて、そこでいろんな活動をしている、少し時間があいたから何か手伝うよ、そんなような仕組みを目指したいということを思っています。

どうも屋上屋で負担が増すんじゃないかと区長さんから言われることがあるんですが、確かに立ち上げるときには一定の労力、御苦勞が必要だと思いますが、立ち上げて、これが2年、3年、更には5年、10年と続いていけば、少しずつでありますけれども、区と地域協議会の役割分担が進んでいき、結果的には区長さんだとか、区の役員さんの負担が少しずつでも減っていくのではないかと考えておりますので、区の役員さん方にも御理解いただいて、御協力いただけるようなことを考えていきたいと思っております。ぜひよろしくお願いを申し上げます。

いずれにいたしましても、市にとっては、こういった地域活動の充実、ボランティアの活性化というものが非常に重要な課題だと認識をしておりますので、私自身も多くの労力を割いて、全力で努力をしたいと思っておりますので、ぜひ皆さん方にも、いろいろと御理解、御協力を心からお願いを申し上げて、委員の委嘱にあたっての挨拶にさせていただきたいと思っております。

大変お世話になりますけれども、どうかよろしくお願いをいたします。

【司 会】

ありがとうございました。

なお、山下市長は、他の公務が入っておりますので、ここで退席とさせていただきます。よろしくお願いをいたします。

〔市長退席〕

〔司会より各委員と事務局職員の紹介の後、委員の互選により会長に稲垣委員、副会長に伊東委員が再任された。〕

【稲垣会長】

皆さん、おはようございます。

ただいまご推薦いただきました社会福祉協議会の稲垣でございます。

先ほど市長からもいろいろお話がありましたけれども、この地域協議会市民会議は、今から4年前、平成24年7月12日に発足し、制度方針が決定したところで、陶小学校区が第1号としてスタートしました。

それを皮切りに篠岡小学校区、そして先日、小牧原小学校区ということで、年に1校区のペースで立ち上がってきております。

なかなか進まないというのは、やはり小学校区ということで、いろいろな人が集まって話し合いをすると、現実的にはどうしても意見の食い違いといいますか、なかなか一つの意見にまとまってこないというのが大きいのではないかなと思います。いずれにしても現在の状況では3校区ということでございます。

私も、4年前からこの市民会議のメンバーとして、自分の地域で何とか立ち上げようという努力をしてみましたが、なかなか難しい部分も多く、いまだ発足に至っておりません。もちろん事務局の力も借りながら、意見交換とか、あるいは検討会議を何度も実施しておりますが、なかなか意見がまとまっていないというのが現状でございます。

ただ、引き続き努力していきたいと、こんなふうに思っております。

この市民会議も三期目に入りまして、20名のうち12名の方が新しいメンバーに交代されました。先ほども市長からお話がありましたように、皆さん方、いろいろなお立場で地域活動をしていただいております、リーダー的な役目をやっておられる方もお見えになりますので、ぜひ忌憚のない御意見を言っていただき、また新風を吹き込んでいただきたいと思っております。

そんなことで、もとより私は微力でございますが、誠心誠意努力して、できるだけ行政の方針に沿えるように努力してまいりたいと思っております。皆さん方の格別の御協力をお願いしまして、甚だ簡単ではございますが、就任の御挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【司 会】

どうもありがとうございました。

それでは、以後の司会進行は会長にお願いしたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

【稲垣会長】

それでは、会を進めていきたいと思っておりますので、皆さん方の御協力のほど、よろしくお願いいたします。

次第の4「地域協議会市民会議の役割について」および、次第の5「その他」を一括して事務局に説明をお願いいたします。

〔事務局から資料に基づき、説明〕

【稲垣会長】

ありがとうございました。

ただいま事務局より説明がありましたことについて、何か御意見や御発言がありましたらお願いいたします。

【小柳委員】

先ほど市長がおっしゃったように、既に超高齢化時代に入っているということは、私どもも十分に認識をしなければならないと思っております。

この間の5日のこどもの日の時ですけれども、14歳以下の子どもが少し増えておるのは東京都だけ、あとは沖縄と福岡だけが横ばいで、他が非常に減少しておるといふ新聞記事が載っておりました。こういうのを見ましても、これから先が非常に高齢化の時代に入ってくるし、元気な高齢者にどうやって社会貢献活動に参加していただくかということが重要な課題になってくると思っております。

私は、過去の市民会議の意見書も読ませていただいておりますけれども、どうも小学校単位でがんじがらめになっているのではないかとこのことを感じております。ただ、まさに高齢化時代を迎えて、行政に文句を言うわけにはいかない、いかに地域でどうするかということ、もう少し力強く、熱っぽく語る時代に入らないと、とんでもないことになるぞという認識を私自身も持っております。

というのは、私、桃花台に住んでいますけれども、私の桃ヶ丘一丁目の高齢化比率というのは40%を超しておるんですね。先ほど市長のお話があったように、22.4%なんていう数字ではなくて、大変な高齢化が進んでおります。これは桃花台地区だけではなくて、お隣の高蔵寺ニュータウンでも大変な状況になっておるものですから、そのこともよく研究しながら、

地域のことをどうしていくかということを考えなきゃいかんということを考えております。

そんな状況で小学校単位ということで縛られると、なかなか自分自身の今の考えや立場からすると、桃花台地区は4つの小学校区で構成されておりますので、今まで築き上げてきた桃花台地区の活動そのものがばらばらにされてしまうというような懸念があります。したがって、そういうことにならないように、これからどうやって構築していくかということが、私たちに課せられた課題だという思いで、ここに参加をさせていただきました。

決して後ろ向きで議論をするつもりは全くありません。今まで築き上げてきた地域の活動にひずみが入ってしまわないような方法で、地域協議会を進めていけるのが一番良いと思っております。

そういう角度から、また意見を出させていただきますけれども、皆さんの御意見を拝聴し、それをしっかり受けとめながらやっていきたいと思っておりますので、その辺よろしくお願ひしたいと思っております。

【稲垣会長】

ありがとうございました。他に何かありませんか。

【上坂委員】

私は本庄に住んでいて、昨年、本庄小学校で防災訓練をやっているいろいろな感じたことがあります。そこで行政にお願いしたいのはどういうことかということ、市のほうももっと横の連携を図っていただき、この協働推進課だけじゃなくて、もっと連携したチームをつくるか、そういう組織と地域が連携し、もっと地域の現状を把握することが重要だと思います。例えば防災訓練で言うと、小学校までたどり着ける人が何人いるかとか、そういうチェックは全くやっていないと思います。

防災については、熊本地震で今皆さんすごく関心が高いと思いますが、そこら辺の現状を全く把握していない状況で、なかなか協議会ができないのはそこにあると思います。上っ面だけの話し合いではなく、本音の部分をもっと皆で話し合って、また、市もそれぞれの課が横断的に協力体制で対応していかないと、市長が幾ら熱を上げて言っても多分できないんじゃないかと思って、発言させていただきました。

【稲垣会長】

御意見、ありがとうございました。他に何かありませんか。

【林委員】

私も稲垣会長と同じく、当初の立ち上げの段階からここに参加させていただいて、いろいろな意見を皆さん方と交換しながら進めてきたわけでございます。

なぜできないのか、どうして進んでいかないのかというのは、それぞれの地域にはそれぞれの課題があって、それを一つずつ解決していかないとなかなかできないということと、旗を振ってくれるリーダーがいないということだと思います。

区長さんは毎年のように交代される。かといって区長さんが地域の代表である以上、区長さんを差しおいて、ほかの地域の人たちがじゃあ俺たちでつくろうというわけにもいかんだろうということになる。

他市の先進地もどうしてもつくらなきゃならないような状況に追い込まれているようなことで、小牧市でというと、先ほど市長も言われたように、財政もそこそこあって、全体としてすぐに困るような状況ではない。

もちろんこれがあと10年ぐらい経つと、立ち上げなきゃいかんじゃないかというようなせっぱ詰まった形になるだろうと思いますけど、そのときには遅過ぎるので、市としては今のうちからやってみようということとで一生懸命やってみえると思う。

現在、市から様々な助成金や補助金がさまざまな団体に出ておりますが、例えばそれらを取りやめるとか、何年後にはやめるから、地域でつくってくださいというようにせっぱ詰まった状況にならない限りは、現実的にはなかなか進まないのかなと思っています。

とはいえ10年後、15年後に手遅れという状況はいかんもんだから、できるだけ早い時期につくらなきゃいかんだろうと私は思います。

【小柳委員】

地域協議会をつくることだけが目的ではなくて、大事なのは地域協議会が何をやるべきかということだと思いますね。先ほど桃花台地区の中で4つの小学校があると言いました。その中で、桃花台地区内のみで構成されているのは、私の桃ヶ丘小学校区だけなんです。したがって、地域協議会をつくるだけならば、地域の皆さんに協力をお願いをすれば、そんなに難しくないような気がしています。ただ、それだけに専念してしまうと、今まで築いてきた地域のさまざまな行事というものとバッティングしたり、あるいは亀裂が入ったりというようなことになってしまうんです。

一つの例としては、桃花台地区は、年末に安心・安全のまちづくり桃花台住民集会をやって、400人くらいが参加されます。東部市民センターの講堂でやりますが、昨年12月20日にある地域協議会の事業で、子どもたちを集めてクリスマス会をやるということで大きな事業をやりました。これは立派なことだと思いますが、日にちがバッティングしてしまったんです。そうすると、やっぱりバッティングするくらいだったらしないほうがよいのではというような声が出てしまう。

ですから、これから大きな課題を持つ大きな団地ですので、小学校区でつくらなきゃならない理由がはっきりしてくれば、びっくりするほど早くつくりたいぐらいだと思います。

【稲垣会長】

ありがとうございました。その他、何かありませんか。

参考までにですが、陶地区にお住まいの水野委員、実際に活動されて何か感じたことがありましたら、お願いします。

【水野（康）委員】

陶地区が第1号ということでスタートしておりますが、まず第1号でできたのは、小牧市内の16小学校区の中で一番こじんまりして、まとまりが非常によいということがあったと思います。

それから、やはり地域のリーダーである区長さん方の意識によって、相当スピード感に差が出てくると思います。

それで現在、防災訓練や夏まつり、春の花火、これも地域協議会が協賛しておるんですが、順調に来ております。ですから、いろいろ行事をやってきて、地域住民の交流というものが少しずつ広がってきているのも感じますし、私は結果的に十分満足しています。

【稲垣会長】

ありがとうございました。他には。

【秦野委員】

先ほど本庄の話をいただいたんですけれども、当然、校区の中では、新しくできたところにお住まいになる方と、昔から住んでおられる方、当然校区の中にいろんなやっぱり狭い地域の中でも事情が違うんです。確かに熊本のような地震がここで起こったら、それこそ本当に誰が避難できて、避難できていないのか、私はこれを調べること自体が多分地域協議会の事業の一つなんじゃないかなあという気がするんですね。

これは、やっぱり地域の方が集まって、例えば小学生とか中学生とかも巻き込んで、どういうふうに避難ができるのか、あるいは協力ができるのかを考える、それが地域協議会の一つの大きな仕事なんじゃないかなと思うんです。

例えば津波が襲ってくる地域というのは、テレビなんかを見ているだけでも進んでいるんですね。どうやって地域が一つになって協力して、近くのお年寄りや歩けない方をそこまでお連れするかみたいなこともやっています。そういった助け合いの精神というものをつくろうと思ったら、やっぱり地域協議会というのは必要なのかなと思いますし、まずは地域の中に誰が住んでいて、どんな状況なのかを知ることが非常に大切なことだと思います。

それで、市長の話の中に、拠点がないということと、行政区と学校区の線引きにずれがあって、この2つが大きなハードルだというふうに言われました。

であれば、やはり出られる人だけでも集まって、例えば小学校の空き教室を利用するなど、話し合いからスタートすればいいと思います。それで、拠点についても地域と学校との関係をどういうふうにつくっていくかということをお話し合うべきだと思います。

あともう1つ、校区、行政区のずれですけれども、今、区長会も6地区で分かれています、なかなかそのエリアと学区が一致しない。じゃあそういうものというのは、誰がそれを決めるのか、行政はどこまで指導ができるのか、あるいは指導できないのか、誰も決め手がいないというのが実際のところなんです。

ただ、こうしたずれをどういうふうに解消するのかということをしっかり考えていかなければ進んでいけないような気がします。この2つハードルが取れば、先ほど言われた防犯・防災、子育て、福祉、そういったことをテーマにしながら、皆さんが話し合い、特に将来を担う子どもたちもそういったところに参加をしていくようなふうになれば、まさに小牧が目指している子育て、夢・チャレンジみたいな部分とか、あと将来、責任を負って社会を支えていけるような子どもたちが増えていくんじゃないかということが全体的に前へ進んでいくように思います。

そういう面では、今、協働推進課というひとつの課の範疇の中で話し合いがされていますけれども、もう少し学校教育の面とかそういったところ

も、地域へどういうふうにかかわるのかというようなことも交えながら、進め方について検討していくべきなのかなと思いました。

【稲垣会長】

御意見ありがとうございました。

予定されている時間も迫ってまいりましたから、本日はこの辺にしておきたいと思いますが、こんなことを発言しようということがありましたら、また次回までに準備しておいていただきたい、こんなふうに思います。

それでは、事務局のほうへお返ししますので、連絡事項がありましたらお願いいたします。

【事務局】

それでは、皆さんありがとうございました。

私のほうから、1点だけ連絡をさせていただきます。

最初の依頼の際にも少し皆様には御案内させていただいているところですが、この会議が終わりましたら、今回から新しく委員に就任された皆様とか、あるいは今までに地域協議会についての説明を聞いたことがないよという方を対象に説明会の場を設けさせていただきますので、恐れ入りますが、関係の方は、今しばらく残っていただければと思いますので、よろしく申し上げます。以上です。

【稲垣会長】

ありがとうございました。

それでは、これをもちまして第15回小牧市地域協議会市民会議を閉会させていただきます。長時間に亘り、ありがとうございました。